

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 藤岡市立東中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒375-0023

群馬県藤岡市本郷786

E-mail higashi-jhs@fujioka-school.gunma.jp

Website http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1020001

幼児児童生徒数 男子 215名 女子 231名 合計 446名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要(800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「自主・挑戦・共生」を学校理念として、ESDを学校理念実現のための基礎学習と捉え、ESDの実践を通して課題解決能力やコミュニケーション能力の育成を目標とした。具体的には、「体験をもとにして生徒が意識して取り組む福祉教育、環境教育、人権教育」を柱に、①アルミ缶回収に係わる活動、②各種支援等のボランティア活動に係わる活動、③校区内環境整備に係わる活動、④いじめ防止に係わる活動を行った。

① アルミ缶回収に係る活動

本校では、アルミ缶のリサイクルに焦点を当てた環境教育の視点や、回収後の収益金活用に焦点を当てた福祉教育の視点などから、全校生徒参加でアルミ缶回収活動を行っている。生徒は家庭で出たアルミ缶や親戚や近所の人などから頂いたアルミ缶を袋に入れ、登校時に持参する。中には近所のスーパーやコンビニに協力を依頼して集めておいてもらい、一度に何百という数のアルミ缶を持ってくる生徒もいる。このような取組の結果、今年度は全校で23万缶を回収することができた。

② 各種支援ボランティアに係る活動

アルミ缶をリサイクル業者に引き取ってもらった収益金の一部を使い、地域の福祉施設や被災地の小学校へ支援物資を送っている。今年度は福祉施設へ代表の生徒が出向き、入所者と交流をしながら支援物資を贈呈した。また、地域のNPOが主催する「藤岡市子どもフェスティバル」に生徒会やいくつかの部活動がボランティアとして参加し、運営補助を行った。その際に古紙やペットボトルキャップも持参し、カンボジア藤岡小学校の設立・運営に寄与した。

③ 校区内環境整備に係る活動

今年度は年に2回、校区内（校内及び校外の道路や公園等）の清掃活動や除草活動を行った。また、そのうちの1回は、親子環境整備作業として位置づけ、保護者とともに校区内をきれいにし、住みよい街づくりに貢献した。また、校内では「花いっぱい運動」を展開し、園芸委員を中心として、季節に合わせた色とりどりの花を栽培し、生徒のみならず学校に訪れた保護者や地域の方々の目を楽しませた。

④ いじめ防止に係る活動

今年度本校では、「人の違いを理解した思いやりの表現」をテーマに人権集中学習を行った。生徒会が中心となり、「東中はあと宣言」や「人権シンボルマーク」を掲げたり、校区内のユネスコスクールである小学校との連携を持ち、「合同あいさつ運動」を実施したり、いじめ防止につながる活動を行った。その中で特に今年度は、縦割り班活動によるピアサポートを実施し、上級生と下級生がともに活動する時間を設け、人間関係作りの基礎を培った。



回収したアルミ缶をつぶす生徒



子どもフェスティバルで係員をする生徒



校外に出てゴミ拾いをする生徒



あいさつ運動をするガッチュウレンジャー

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 課題を解決する力)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 学校外の日常の活動など)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<p>・ 藤岡市ボランティアネットワーク W i t h ホームページ http://with.html.xdomain.jp/</p>

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ① アルミ缶回収に係わる活動…月に一度の特別活動（専門委員会）の時間のほか、時間外で日常の常時活動で実施
- ② 各種支援等のボランティア活動に係わる活動…藤岡市子どもフェスティバルへの参加は課外活動として、生徒会本部役員や各部活動が参加。福祉施設訪問は、課外活動としてJRC委員会が参加。
- ③ 校区内環境整備に係わる活動…生徒が主体で行う環境整備作業（年に1回）は学校行事として実施。親子で行う環境整備作業は、課外活動として実施。（土曜日）
- ④ いじめ防止に係わる活動…あいさつ運動は課外活動として、縦割り班活動は学級活動として実施。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・学校全体として今年度重点的に取り組んでいこうとするスローガンを「挨拶、合唱、ボランティア」として、広く生徒や保護者、地域の方々に伝えた。
- ・アルミ缶回収活動をこれらの奉仕活動の中心に据え、年間を通し全校生徒で取り組んでいく活動と位置づけ、収集の結果や収益金の使い方等を文化祭の場で全校生徒や保護者地域住民に伝達した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・ユネスコスクールとして、ESDの視点で本校の活動を見直した取組に関する評価を学校評価中の質問に取り入れ、年に二度、生徒と保護者に実施した。また、学校評議員会を年に二度開催し、外部の方からユネスコスクールとしての取組に関しての意見を聞く場を設けた。その結果、つながりをキーワードとしての取組に対して理解が進んでいることが確認できたが、まだ生徒個々のコミュニケーション能力の育成には課題があることがわかってきた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

各活動の取組の様子は、逐一学校WEBページで保護者や地域の方々に伝えた。また、文化祭や学校公開日等、保護者や地域の方々が来校する機会を生かし、ユネスコスクールとしての取組を参観してもらった。

その結果として、本校がユネスコスクールの理念を生かした教育活動を行っていることへの理解が進んだ。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

・かねてより「藤岡市ボランティアネットワークWith」と連携しており、資源回収によるカンボジア藤岡学校の設立に協力した。また、当地域コミュニティ主催の「藤岡市子どもフェスティバル」へ、ボランティアとして参加し運営を担当した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

連携型小中一貫教育として本校と関係を持っている校区内の3小学校(ユネスコスクール)においては、共通の理念のもとでの学校経営、教育課程の編成が実施されている。また、合同研修や兼務教員の相互授業等の教員交流や、合同挨拶運動や中学生による小学生への合唱披露等の児童生徒の交流も盛んに行われている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

・ 問題解決型の指導法、求める資質能力を明確にした指導法、つながりを重視した指導法等、教員の授業の質が向上した。
・ 福祉、環境、人権というテーマのもとでの、教科横断的な教育課程の編成が進んだ。
・ 地域や保護者に向けて、本校が目指している教育がどのようなものかを啓発することができ、本校の教育に対して肯定的に見てくれる方が増えた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

・ 平成29年度の反省・評価をもとに、主な活動については継続していく。
・ ボランティア活動に対しては、「ユネスコESDパスポート」の活用をさらに図り、生徒の意識を高めるとともに、意欲化を図る。
・ 校区内のユネスコスクール（小学校）を中心に、連携、交流をさらに推進していく。